

# 野ばら 7月号

## 暖かい心で見守る

校長 夏見隆晴

長い間、中高生と関わってきて、未だに考えさせられるのは、この世代に対しては「子供扱い」は禁物である、ということです。当然、わたし自身も、そのような事で彼ら彼女らの気持ちを害さないようにと、気を付けております。けれども、時には食い違いが起こる事があります。私が親しみをこめて使った言葉でも、相手は、「いつまで子供扱いするのか」と、機嫌を壊されたこともありました。しかし今では、私の方も成長して、少しの間を置いて、相手の表情を読み取ったところで、相手の言葉を待てるようになりました。

しかし、相手を温かく見守ると言っても、どのような会話も瞬時の勝負です。それで、普段から溜まっている本音が、思わず出てしまう事があります。そのような時には、自分でも思いもよらない言葉が、噴き出してしまふこととなります。本当に、どうしようもないという状態になる事さえあります。それは会話というより、感情の暴露としか言えないような言葉が飛び出して来る事さえあります。それは、相手との結びつきが強ければ強いほど、当然の事のような状態で出て来るもので、自分でも本当に困ってしまいます。

しかし、以上の様な失敗とも考えられることも、担任という生徒と近い関係にある時しか経験できない事、と思いきや後悔したり、赦して欲しいと心の中で謝ったりする事の方が多くなりました。生徒と教師との関係というのは、仕事の多忙さということもあるのですが、そのような言い訳をする前に、常に自分の言葉が相手にとってどのように受け取られるかという事にもっと気を付ける必要があったのではないかと、今になって遅まきながら、心の中でかつての生徒達に向かって赦しを乞うている次第です。

縁あって教える者と教わる者という関係になった二人は、普通に考えれば、その縁を勝手に切り取ることはできません。教師もその事は、自分自身よく解っております。特に教師の側で、教えるを受け取る側の心のあり方に心配りをしたうえで、適切な言葉を発するのが当然でしょう。それでも、あえて、言い訳をするようですが、普通の場合、教師は「この事を理解してもらいたい」との一心で、受け取る側の生徒の前に立っておりますので、言葉に力が入りすぎて、聴く者の側に厳しく響いてしまうことも多いのでしょうか。

どんな教科の教師も、教師を名乗っている以上、相手の人間性と向き合わなければなりません。その行為は、生きた人間に向かって届けるといのが仕事です。自分の発する言葉が、聴き手の耳から心へと届けられたと感じられた時など、本当に嬉しいものです。「どうか、この言葉が肉となって、将来どこかで思い出してくれるれば嬉しい」という思いが、教える者の真の喜びとなるのです。どうか教えた内容の中に、何時かこれは「聴いた事があった」と、思いだしてもらえれば、それだけでわたし自身にとっても喜びです。

## Living with COVID-19 in our New Culture

### —コロナと共に、私たちの新しい生活様式—

ウィンフィールドハリー

2020年5月21日に学校が再開した。学校のスタッフ、生徒達は、平常通り学校生活が始まった。いや、本当にこれが平常な日常だろうかと戸惑いながら、今までの私の常識を覆している。本来ならば、この時期には、オーストラリアに短期留学する学生にカルチャーショックを話している頃なのだが、今回は、コロナと共に暮らす私たちの新しい生活様式を新しい国、文化に暮らすようなカルチャーショックと捉えてみることにした。

カルチャーショックは、4段階で起こる。第1段階では、全てが新しく、異文化、ユニークで、とても興奮するハネムーンのようなと言われていた。その段階は、3週間程続く。第2段階目は、新しいことに対する違和感、不便感や不満が現れる。第3段階目は、変動する環境に慣れていく。第4段階目では、正解、不正解に限らず、この違和感を緩和しつつ、新しい事を受け入れていく。

こういう段階を経て、現在の状況を考え、理解していこう。

・見聞きし、考え、対話していこう。この新しい生活様式の短所だけをみないで、それがもたらす利益やいいことに目を向けよう。

・周りの方々がこの新しい生活様式とどう付き合っているか見てみよう。

・そして、最後に「何を理解すればいいのか。何をすればいいのか」を自分に聞いてみよう。この状況を明確に理解することで、いろんなトラブルに巻き込まれずに問題を解決することができる。

新しい生活様式に慣れようとすると同時に、今までしてきたことのしきたりを懐かしむのは仕方のない事だ。その気持ちが、過去を忘れないという意味では重要だ。しかし、私たちは、現在を生き、将来のためにいきていることも覚えておかなければならない。この新しい生活様式には、いろんな斬新な発想が必要になってくるので、みんなで考えてみよう。過去のしきたりにとらわれてしまっていると新しい生活様式になじめなくて辛くなってしまう。

今、この大きな変化、違和感、不満、恐怖、を感じていることは、正常な心の働きだということを忘れないようにしたい。カルチャーショックは、新しく多角的な視野を持つための学習プロセスだ。これからは、コロナと共に新しい生活様式を取り入れなくては行けないので、周りを良く観察し、周りに気を遣い、自分も周りも守り、安全に生活していくことをお願いしたい。





## の行事予定

1日(水)	職員会議
2日(木)	高1胸部X線(午前)
3日(金)	ベネッセ記述模試(4~5年生)、進研記述模試(6年生)終日
8日(水)	委員会①
9日(木)	カウンセラー来校日①
10日(金)	漢字検定(放課後・希望者のみ)
15日(水)	カウンセラー来校日②
17日(金)	歯科検診(午前)
18日(土)	総合/PUP③/午後授業(5~7校時まで) / 学校説明会① GTEC(6年生)
22日(水)	カウンセラー来校日③
23日(木)	海の日
24日(金)	スポーツの日
27日(月)	第2回定期試験 ~30日(木)まで
30日(木)	カウンセラー来校日④

※7月18日(土)は45分の授業になります。

